《文しょうもんだい13》

【れいだい】

つぎの文を読んで答えましょう。

「お父さん、早く行こう。」

ケンタはしまにわたるはしの上で、ふりむいて言いました。

前に見えるのは、えのしまというしまで、たくさんの人がはしの上を歩いています。はしのりょうがわには、すなはまが広がって、すなあそびをする人や、なみをかぶりながらあそぶ人、うきわでおよぐ人など、思い思いに楽しんでいます。

「ケンタ、あわてないで、まわりのけしきも見てごらん。海も、しまも、空もきれいだから。」

お母さんは、気もちよさそうに空を見上げて、歩くのを楽しんでいるようです。

今朝のことでした。お父さんとお母さんと三人でごはんを食べているとき、とつぜんお母さんが言いました。

「ケンタ。今日はお父さんも一日いっしょよ。海に行ってみない。」

ケンタの家は、海から少しはなれていて、車で一時間ぐらいかかります。それで、海にはほんのたまにしか行けません。ケンタがよろこんで、「うん、行こう。」と答えたので、来ることになったのです。

さて、はしをわたってすすんでいくと、お店がならんだ、古いしょう店がいに入ります。おみやげやさんや、食べものやさんがならんで、たくさんの人が歩いています。

お母さんは、いろんな店をのぞいて、言いました。

「たこせんべいやおまんじゅう、みたらしだんご、どれもおいしそう。帰りに何か食べたいわ。」

つづいてさかを上っていくと、じん社のはしらのしゅ色が目にとびこんできました。えのしまじん社です。まわりの木の緑にかこまれて、じん社はしずかに立っています。そのまわりを、大ぜいの人がにぎやかに通りすぎていきました。

(1) えのしまにわたるはしのりょうがわには、何が広がっていますか。

(2) はしの上で、お母さんがきれいだと言っているものはなんですか。三つ書きましょう。

(3) ケンタの家は海から少しはなれています。どのくらいはなれていますか。（　）に当てはまることばを書きましょう。

（　　）で一時間ぐらい。

(4) はしをわたった後、道はどこにつづいていきますか。

(5) お母さんは、いろんな店の食べものを見て、何か食べたいと思いました。いつ食べたいと言いましたか。

【答え】

(1) すなはま

(2) 海(と)しま(と)空

(3) 車

(4) 古いしょう店がい

(5) 帰り

【せつ明】

文の中に、つぎのように書いてあります。

(1) はしのりょうがわには、すなはまが広がって、

(2) 海も、しまも、空もきれいだから。

(3) 海から少しはなれていて、車で一時間ぐらいかかります。

(4) はしをわたってすすんでいくと、お店がならんだ、古いしょう店がいに入ります。

(5) 帰りに何か食べたいわ。

つぎの文を読んで答えましょう。

えのしまのいちばん上につくと、大きなとうが見えてきました。シーキャンドルという名前で、てんぼう台になっています。名前を日本語に直すと、海のろうそくです。遠くから見ると、しまのちょう上に立てたろうそくのように見えるそうです。

三人は、シーキャンドルのすぐ近くまで来ました。

「すごく高いとうだね。上ってみたいな。」

ケンタは言いました。今いるところからでも、遠くまで見えて、いいけしきです。とうに上れば、もっとすごいけしきが見えるはずです。

「よし、行ってみよう。」

お父さんが言いました。

三人はきっぷを買って、エレベーターをまつ行れつにならびました。とうにはエレベーターで上るのです。そして、とても人気で、長い行れつができています。まっている人はみな、じゅん番をまちながら楽しそうです。

ケンタたちのじゅん番が来て、三人はエレベーターに入ります。たくさんの人が入って、ドアがしまり、エレベーターは上っていきます。しばらくすると、エレベーターが止まり、ドアがひらきました。

そして三人は、ほかの人の後につづいて、てんぼう台に出ました。

「うわあ、すごい。ふじ山がきれいに見えるよ。」

お母さんが見ている方を二人が見ると、くっきりとふじ山が見えます。足の下には、海とすなはまと白いなみ。そのむこうに、大きなふじ山です。

「ふじ山って、本当に大きいんだね。まわりの山がとってもひくく、小さく見える。」

お父さんのことばを聞いて、ケンタも本当だなと思いました。まっ青な空の下、よこに細長くつづく山を、ふじ山は上から見下ろしているようでした。

少し右を見ると、さっきわたってきたはしが小さく見えました。

（1）シーキャンドルを日本語に直すと何になりますか。

（2）シーキャンドルの上には、何をつかって上りますか。

（3）じゅん番をまっている人は、どんなようすですか。

（4）てんぼう台に出たとき、ふじ山をはじめに見つけた人はだれですか。

（5）ふじ山とくらべると、まわりの山はどんなふうに見えますか。

つぎの文を読んで答えましょう。

ぼくの生まれた家では、みかんとお茶をたくさん作っていました。今でも家の前にはお茶ばたけが、うら山にはみかんばたけが広がっています。

うら山にのぼる道はとても細くて、一人しか通れません。とちゅうに、子どもにはとてもきゅうなところがあって、足がすべってころびそうになったものです。そこを通るときは、いつもどきどきしながら、足をしっかりふんばって、一歩一歩のぼりました。

みかんの木は、大人よりだいぶせが高く、こんもりとしています。こいみどり色のはがしげって、その間にオレンジ色のみかんがたくさんつきます。

みなさんは、みかんをどうやってとるのか知っていますか。きかいでとるのではありません。一つ一つ、手とはさみをつかってとるのです。手がとどくところはかんたんです。左手でみかんをもって、みかんのねもとのえだをパチンとはさみで切ります。このとき、みかんにえだがのこらないように気をつけます。えだがついたみかんをはこに入れると、そのえだでほかのみかんにきずがついてしまうからです。

みかんにきずがつくと、売れないだけでなく、くさりやすくなります。一つくさるとまわりもくさってしまうのでたいへんです。

木の上の方になったみかんをとるときには、少しみかんの木にのぼります。遠くになっているものは、りょう手がとどかないので、手をのばしてかた手でとります。人さしゆびと中ゆびとくすりゆびをつかってみかんをおさえ、親ゆびと小ゆびではさみをつかいます。

それでもとどかないところにあるみかんは、とるのがたいへんです。そこで子どもの出番です。子どもはかるいので、木の高いところまでのぼっても、えだがおれないのです。わたしも子どものころに、よくみかんをとる手つだいをしました。「とてもたすかった。ありがとう。」そう言われたときには、本当にうれしかったものです。

（1）「ぼくの家」のみかんばたけはどこにありますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

ぼくの家の（　　）

（2）みかんのはの色はどんな色ですか。

（3）みかんをとるときには、えだがのこらないように気をつけます。これはなぜですか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

ほかのみかんに（　　）しまうから。

（4）木の上の方のみかんをかた手でとるとき、はさみをつかうゆびは、親ゆびともう一つはどのゆびですか。

（5）高いところのえだに、子どもがのぼってもおれないのはなぜですか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

子どもは（　　）。

つぎの文を読んで答えましょう。

えのしまのいちばん上につくと、大きなとうが見えてきました。シーキャンドルという名前で、てんぼう台になっています。名前を日本語に直すと、海のろうそくです。遠くから見ると、しまのちょう上に立てたろうそくのように見えるそうです。

三人は、シーキャンドルのすぐ近くまで来ました。

「すごく高いとうだね。上ってみたいな。」

ケンタは言いました。今いるところからでも、遠くまで見えて、いいけしきです。とうに上れば、もっとすごいけしきが見えるはずです。

「よし、行ってみよう。」

お父さんが言いました。

三人はきっぷを買って、エレベーターをまつ行れつにならびました。とうにはエレベーターで上るのです。そして、とても人気で、長い行れつができています。まっている人はみな、じゅん番をまちながら、楽しそうです。

ケンタたちのじゅん番が来て、三人はエレベーターに入ります。たくさんの人が入って、ドアがしまり、エレベーターは上っていきます。しばらくすると、エレベーターが止まり、ドアがひらきました。

そして三人は、ほかの人の後につづいて、てんぼう台に出ました。

「うわあ、すごい。ふじ山がきれいに見えるよ。」

お母さんが見ている方を二人が見ると、くっきりとふじ山が見えます。足の下には、海とすなはまと白いなみ。そのむこうに、大きなふじ山です。

「ふじ山って、本当に大きいんだね。まわりの山がとってもひくく、小さく見える。」

お父さんのことばを聞いて、ケンタも本当だなと思いました。まっ青な空の下、よこに細長くつづく山を、ふじ山は上から見下ろしているようでした。

少し右を見ると、さっきわたってきたはしが小さく見えました。

（1）シーキャンドルはどこにありますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

えのしまの（　　）

（2）シーキャンドルに上りたいと言ったのはだれですか。

（3）じゅん番をまっている人がたくさんいるようすについて、（　　）に当てはまることばを書きましょう。

とても人気で、（　　）ができています。

（4）てんぼう台から見たとき、足の下に見えるものはなんですか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

海とすなはまと（　　）

（5）ふじ山とまわりの山の大きさは、どんなふうにちがいますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

ふじ山がまわりの山を（　　）いるよう。

つぎの文を読んで答えましょう。

ぼくの生まれた家では、みかんとお茶をたくさん作っていました。今でも家の前にはお茶ばたけが、うら山にはみかんばたけが広がっています。

うら山にのぼる道はとても細くて、一人しか通れません。とちゅうに、子どもにはとてもきゅうなところがあって、足がすべってころびそうになったものです。そこを通るときは、いつもどきどきしながら、足をしっかりふんばって、一歩一歩のぼりました。

みかんの木は、大人よりだいぶせが高く、こんもりとしています。こいみどり色のはがしげって、その間にオレンジ色のみかんがたくさんつきます。

みなさんは、みかんをどうやってとるのか知っていますか。きかいでとるのではありません。一つ一つ、手とはさみをつかってとるのです。手がとどくところはかんたんです。左手でみかんをもって、みかんのねもとのえだをパチンとはさみで切ります。このとき、みかんにえだがのこらないように気をつけます。えだがついたみかんをはこに入れると、そのえだでほかのみかんにきずがついてしまうからです。

みかんにきずがつくと、売れないだけでなく、くさりやすくなります。一つくさるとまわりもくさってしまうのでたいへんです。

木の上の方になったみかんをとるときには、少しみかんの木にのぼります。遠くになっているものは、りょう手がとどかないので、手をのばしてかた手でとります。人さしゆびと中ゆびとくすりゆびをつかってみかんをおさえ、親ゆびと小ゆびではさみをつかいます。

それでもとどかないところにあるみかんは、とるのがたいへんです。そこで子どもの出番です。子どもはかるいので、えだの先の方までのぼるのです。わたしも子どものころに、よくみかんをとる手つだいをしました。「とてもたすかった。ありがとう。」そう言われたときには、本当にうれしかったものです。

（1）「ぼくの家」の前には何がありますか。

（2）みかんはどうやってとりますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

一つ一つ（　　）でとる。

（3）みかんをとるときに気をつけることはなんですか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

みかんに（　　）ように気をつける。

（4）木の上の方のみかんをかた手でとるとき、みかんをおさえるのにつかうゆびは何本ですか。

（5）高いところのみかんをとるのを手つだうとき、子どもは何をしますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

（　　）までのぼる。

つぎの文を読んで答えましょう。

ユミが生まれた町では、冬は晴れた日がつづいて、めったに雪はふりませんでした。それで、雪国の子どもが雪がっせんをしたり、かまくらに入ったりという話を聞くと、いつもとてもうらやましく思っていました。

そんなユミは今日、にいがたけんにやってきました。お父さんの友だちのさとうさんが引っこしてきて、しょうたいしてくれたのです。

えきが近づくと、ユミはとてもドキドキしてきました。まどから見えるけしきが、雪でまっ白だったからです。それは、まるでわたがしのように見えたのでした。

やがて、にいがたえきにつきました。外に出ると、さとうさんが車でむかえに来てくれていました。

「こんにちは。」

ユミは元気にあいさつをしました。

「こんにちは。ユミちゃん、元気だね。雪だらけでたいへんだけど、楽しんで帰ってね。」

さとうさんがユミに言いました。

「ううん。こんなにたくさんの雪を見るのははじめてなの。だからワクワクしているんです。」

と、ユミ。

「あはは。そうかい。でも、こっちでくらしていると、雪はたいへんなことが多いんだよ。たとえば、道に雪がつもると、車も走れないし、人も歩けない。」

「え、そうなの。雪の上は走ったり歩いたりできるのかと思ってた。」

「ごらん。道ろのまん中から水が出ているのが見えるだろう。あれは水じゃなくて、雪をとかすためのおゆなんだよ。それで道ろに雪がつもらなくて、こうしてむかえに来ることができるんだ。雪が多すぎるととけ切らないから、じょ雪車という車で、道の雪をどかさなきゃならない。」

雪がふるって、たいへんなんだなあと、はじめてユミは思いました。

（1）雪国の子どもが雪であそぶのを聞いて、ユミはどのように思っていましたか。（　）に当てはまることばを書きましょう。

とても（　　）思っていた。

（2）にいがたえきに近づいたとき、まどから見える雪はなんのように見えましたか。

（3）むかえに来てくれたさとうさんは、雪が多いことについてユミになんと言いましたか。（　）に当てはまることばを書きましょう。

雪だらけで（　　）。

（4）ユミはさとうさんに会ったとき、はじめてにいがたの雪を見ました。このとき、ユミはどんな気もちでしたか。（　）に当てはまることばを書きましょう。

（　　）気もち

（5）道ろのまん中からおゆが出ているのはなんのためですか。

つぎの文を読んで答えましょう。

ユミが生まれた町では、冬は晴れた日がつづいて、めったに雪はふりませんでした。それで、雪国の子どもが雪がっせんをしたり、かまくらに入ったりという話を聞くと、いつもとてもうらやましく思っていました。

そんなユミは今日、にいがたけんにやってきました。お父さんの友だちのさとうさんが引っこしてて、しょうたいしてくれたのです。

えきが近づくと、ユミはとてもドキドキしてきました。まどから見えるけしきが、雪でまっ白だったからです。それは、まるで雲のように見えたのでした。

やがて、にいがたえきにつきました。外に出ると、さとうさんが車でむかえに来てくれていました。

「こんにちは。」

ユミは元気にあいさつをしました。

「こんにちは。ユミちゃん、元気だね。雪だらけでたいへんだけど、楽しんで帰ってね。」

さとうさんがユミに言いました。

「ううん。こんなにたくさんの雪を見るのははじめてなの。だからワクワクしているんです。」

と、ユミ。

「あはは。そうかい。でも、こっちでくらしていると、雪はたいへんなことが多いんだよ。たとえば、道に雪がつもると、車も走れないし、人も歩けない。」

「え、そうなの。雪の上は走ったり歩いたりできるのかと思ってた。」

「ごらん。道ろのまん中から水が出ているのが見えるだろう。あれは水じゃなくて、雪をとかすためのおゆなんだよ。それで道ろに雪がつもらなくて、こうしてむかえに来ることができるんだ。雪が多すぎるととけ切らないから、じょ雪車という車で、道の雪をどかさなきゃならない。」

雪がふるって、たいへんなんだなあと、はじめてユミは思いました。

（1）雪国の子どもが雪であそぶのを聞いて、ユミがうらやましく思っていたのはなぜですか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

ユミが生まれた町では、雪は（　　）から。

（2）にいがたえきに近づいたとき、まどから見える雪はなんのように見えましたか。

（3）むかえに来てくれたさとうさんは、雪が多いことについて、どうかんじているとユミに言いましたか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

雪は（　　）が多い。

（4）道に雪がつもるとどうなりますか。（　　）に当てはまることばを書きましょう。

車は（　　）し、人は歩けない。

（5）雪が多すぎてとけ切らないとき、道の雪をどかす車をなんといいますか。